

令和6年度 第3回羽島市社会教育推進審議会 会議要旨

日 時	令和7年2月14日（金）午後1時30分～午後3時05分
場 所	羽島市役所本庁舎 3階 301会議室
出席者	<p>（社会教育委員）出席者7人（欠席者1人）</p> <p>花村 伸二 委員(小中学校長会代表)</p> <p>松尾 東彦 委員(子ども会育成協議会代表)</p> <p>白木 幸子 委員(羽島中央生活学校代表)</p> <p>坂田田壽子 委員(文化協会代表)</p> <p>渡邊 修 委員(コミュニティセンター館長会代表)</p> <p>高砂 房子 委員(学識経験者、家庭教育)</p> <p>二村 玲衣 委員(学識経験者、社会教育)</p> <p>（事務局）</p> <p>伊藤佳津子（市民協働部長） 岩田 睦巳（生涯学習課長）</p> <p>柴田 泰宏（スポーツ推進課長） 番 重宗（図書館長）</p> <p>大橋 寛子（生涯学習課主幹） 吉田 智紀（同課係長）</p> <p>杉山 大祐（同課主事）</p>
内 容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・会議開催成立の報告 ・会議公開及び傍聴の有無の報告 <p>2 副委員長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>令和6年度の取り組みについて</p> <p>資料に基づき、事務局より令和6年度の取り組みを説明。</p> <p>（委員）</p> <p>学びEye はしまの発行時期について、子どもたちが夏休みにいろいろな活動に参加できるように、8月ではなくもっと早く配布してほしい。</p> <p>（委員）</p> <p>放課後子ども教室について、地域の方々の参画を得たと報告があるが、どのような方が参画しているのか。</p> <p>また、子ども会について、相談先が少なく自治会も困っている。学校から、今年は何人加入するかなど情報を教えてもらえるのか。</p>

(事務局)

放課後子ども教室は、ボッチャであればスポーツ関係の団体、和太鼓であれば精通している方、お話の会であれば図書館関係の団体というように、地域の方を先生として招き、協力いただいている。また、その方々との調整は担当コーディネーターが行っている。

子ども会は各地域での話ではあるが、細かい事務など分からないことがあれば、生涯学習課に担当職員がいるので、窓口へお越しいただきたい。学校からの紹介については、個人情報はないかなかなか出しづらい。市が揃えている情報よりも、その地域にお住まいの方の情報がより正確であると思う。

(委員)

昔遊びなどイベントをする際に、誰か精通している人はいないかコミュニティセンターでも声を掛けている。人材のデータベースがあればありがたい。

(委員)

今年度も放課後子ども教室に学生を実習参加させていただいた。支援員の声掛けなど多くの学びがあり、来年度もぜひ参加させていただきたい。今後、開催日数を増やすなど拡大の展望はあるか。

また、活動を停止している子ども会が多いという話を聞いた。現在の子どもの会の数、活動停止している数、廃止の動きがあるのかを知りたい。

(事務局)

放課後子ども教室は現在参加児童の学年を指定しており、ニーズはその年により変わってくるが、可能な限り市内全9校での実施を継続していきたい。今後特定の学校で隔年実施や、規模を縮小する可能性はあるが、参加した児童には新鮮な体験で、みな目を輝かせており、素敵な活動であると考えている。

子ども会の正確な状況は育成協議会が把握している。育成協議会の会長は「今はいろいろなコミュニティがあるが、だからこそ子ども会の良さを伝えていこう」と前向きに話されていた。

(委員)

子ども会は過渡期にある。ジュニアリーダーも、学業などで忙しく人数が減っている。以前は子ども会の活動で火や小刀を扱っていたが、今は危ないということで規制がかかり、以前と比べて子ども

が自由に活動できていない。本来子ども会の活動で生活の知恵や人との関わり方などについて学んでいくものであり、子どものときにしかできない体験がある。実際に体験することで、それが大人になって貴重な経験として生きてくる。

(委員)

子どもたちにさまざまな体験の機会を提供いただき、感謝している。生涯学習推進市民大会の若宮先生の講話で「人生 100 年時代の中で、学び直し何をどう学ぶか。勉強嫌いにさせないようにすることが大事である。」という言葉が印象に残っている。小中学校教育の中で、勉強に意欲的な子ども、学校外でも学び続ける子どもを育てていきたいと考えている。

また、正木小学校でイタセンパラを飼育しているが、先日羽島高校の生徒に保護活動の話をしていただいた。これからも羽島高校とつながりをつくり、イタセンパラの普及活動を進めていきたい。

最後に、新しい時代の学校構想検討委員会の答申が昨年 11 月に出されたが、その一番初めに体験的な活動を通じた教育を行うことが示されている。小中学校教育の中で体験的な活動を取り入れながら、子どもたちに学ぶ喜びを感じてもらえるよう、これからも支援をお願いしたい。

(委員)

二十歳のつどいについて、例年参加者は交流会や式典の開始時刻に合わせて集合するが、今年は交流会が始まった後も少しずつ参加者が来館した。交流会に参加しない方もおり、参加者が自由意志で行動していると感じた。

放課後子ども教室に携わっているが、スマホや iPad など IT 時代だからこそ、人と会って言葉を交わすことの大切さを伝えてほしい。今は夏休みに活動を企画しても、全然人が集まらない。放課後子ども教室についても知らない親がまだ多くいる。興味がないということも理由の一つと思われるが、親世代はスマホで情報を収集するため、周知の方法については検討する必要があり課題である。

人が集まったの活動は意味があるから続いてきたのであって、その意味や本当に必要なことをもう一度見つめ返し、諦めず地道に活動を続けていくことが大切である。

(委員)

スポーツ推進について、はしま南部スポーツ村の活動もマンネリ

化しないようアイデアを出し合い実施している。11月のなんスポフェスティバルでは子どもたちだけでなく、親や先生も楽しんで活動していた。

(委員)

バスケットボールやサッカーのプロスポーツ選手が学校へ来て指導してくださり、子どもたちは大変喜んでいました。これからもぜひ交流を続けてほしい。

また、正木小学校の体育館の床が傷んでおり、他の小中学校も含め一度点検いただき、直していただきたい。

(事務局)

スポーツ教室は、予算が認められれば来年度も続けたいと考えている。

体育館の点検と修繕は教育委員会事務局が担当のため、報告し情報を共有させていただく。

(委員)

羽島特別支援学校で開催予定であった先週のボッチャ大会が大雪で中止となり、参加者の多くが楽しみにされていたので、大変残念であった。特別支援学校の児童生徒ともっと触れ合えるようになれば良いと思う。

(委員)

図書館の活動について、本離れが進んでいるが、まずは足を運んでもらおうということで様々なイベントを企画していると思う。また長期間の休みには開館時間を延ばしていただき、利用しやすくなったことに感謝している。

(委員)

図書館のイベントについて、一般の方にはどのように周知しているのか。

(事務局)

市広報紙やホームページ、学校へは図書館だより、保護者へは「すぐーる」というアプリで周知している。また、イベントの開催1ヶ月前からは図書館内でもお知らせを掲示している。コミュニティセンターへのチラシ配布も行っているが、こちらは効果が薄いのでま

た検討したい。

(委員)

ボランティアについて、若い世代は時間や経済的に余裕のない方が多くいる。そのような中で、スマホを利用したやり取りをする方が手軽ではあるが、本当は対面でのコミュニケーションや人との触れ合いを大切にしたいと思っている方が多い。思いはあっても行動に結びついていない現状で、ボランティア活動を継承する方を育成していくには、有償ボランティアにしたり資格制度をつくったりするなど工夫が必要ではないか。余裕を奪われず、活動したくなるようなボランティアとしていく必要があると考える。

(事務局)

参加いただける方の負担を減らし、協力いただけるようなボランティアの体制づくりに努めていく。

(委員)

電子書籍を整備いただき、子どもたちはタブレットで真剣に読んでいる。図書の分類を増やして、これからも続けてほしい。

(委員)

保健センターで健診に来るお母さんに直接チラシを手渡しており、赤ちゃんタイムは参加人数が年々増えている。1年間は親子でじっくり向き合う時間をとってほしいと思っている。赤ちゃんタイムに限らず他のイベントも継続して実施してほしい。

先程のボランティアの話は、無償で人は集まらない。図書館のイベントでのお話ボランティアには、図書館から図書券が配布される。

4 その他

(委員)

資料3の北方町の活動報告にもあるが、これから地域と学校の連携がますます重要になってくる。地域学校協働活動推進委員向けの講習や研修会があれば教えてほしい。

(事務局)

羽島市では、学校運営協議会の委員の中に地域学校協働活動推進委員を位置付けている。市が主催する研修会はないが、岐阜大学で

地域学校協働活動推進委員の研修会を年4回実施しているので、情報提供させていただく。

5 令和7年度岐阜県・岐阜地区の各種大会の案内

6 市民協働部長あいさつ

7 閉会

以上